

令和6年度一般社団法人日本サステナブル建築協会事業報告

第1 運営に関する事項

1. 会員の状況

会員の種類		令和6年度末 会員数
正会員	個人	7人 (7)
	団体	24団体 (25)
	計	31 (32)

※ () 内は前年度末の会員数

2. 会議の開催

(1) 総会 (令和6年6月5日)

「令和5年度事業報告及び決算」が承認され、「役員の選任」が行われ、「令和6年度事業計画及び収支予算」が報告された。

(2) 理事会

① 第1回通常理事会 (令和6年5月22日)

「令和5年度事業報告(案)及び決算(案)」、「令和5年度定時総会招集」及び「会員の入会」が議決され、「令和6年度業務執行状況報告」が報告された。

② 第2回臨時理事会 (令和6年6月5日)

「会長(代表理事)の選定」が議決され、田辺新一氏が選定された。

③ 第3回通常理事会 (令和7年3月12日)

「令和7年度事業計画及び収支予算」が議決され、「令和6年度業務執行状況報告」が報告された。

第2 事業実施に関する事項

1. 住宅・建築物の省エネルギー性能の技術的検討

建築物省エネ法の円滑な普及に寄与するとともに基準強化に対応するため、新たに開発される設備や建材等の省エネ性能評価法の検討、計算プログラムの運用方法の検討、一次エネルギー消費量計算法の実務的運用方法の反映、住宅・

建築物の外皮性能評価の簡易化手法、各種給湯、暖冷房システムの評価手法の開発・検討等を実施し、WEB プログラム等に反映した。

2. 建築環境総合性能評価システム（CASBEE）の開発整備

CASBEE 評価システムにおいて、ホールライフカーボン評価の最新の研究成果の活用方法に関する検討を行い、うち建築ツールの算定方法を最新の算定ツール J-CAT をベースに更新した。加えて建築物省エネ法をはじめ最新の法令等の動向等を反映するための検討を行った。

CASBEE-建築、戸建、不動産、街区及びウェルネスオフィスの各評価ツールについて試行版を公開後、建築、戸建、不動産、街区の各評価ツールの正式版（2024 年版又は 2025 年版）を順次公開した。

3. 調査研究

（1）SDGs スマートウェルネス住宅に係る調査研究

① SDGs スマートウェルネス住宅の研究開発

住宅と健康に関する国内外のガイドライン類の最新情報の収集と整理を行い、室内温湿度基準案の検討、設計支援ツールの開発及びスマートウェルネス住宅の普及方策として設計ガイドの検討及び書籍化の検討を実施した。

② 居住環境変化による居住者の健康状況の変化等に関する調査

住宅の居住環境改善が疾病予防、介護予防等にもたらす効果を明らかにするため、住宅の改修前後の温熱環境と居住者の健康状態に関するデータ収集を全国規模で収集することを目的に、既改修者に対する追跡調査として改修 5 年後調査を行った（112 世帯）。

また、関東近辺の集合住宅における窓改修前後の居住者の健康状況の変化等に関する調査を実施した（76 世帯）。

（2）SDGs スマートウェルネス建築の調査研究

SDGs の達成に建築物の観点から貢献することを目的とし、次世代のオフィスを経営品質のみならず知的生産性・健康性を加えて評価するウェルネスオフィスの概念を多用途建築物に展開する検討を行い、不動産便益検討、国内外のウェルネス建築等に関する動向調査を行った。また、ウェルネスオフィスに関する概念・事例を発信する書籍の企画・検討を行った。

(3) LCCM 住宅・建築物の調査研究

一般建築物への LCCM 化の適用に向け、中層共同住宅 LCCO₂ 評価ツールの検討、既存建築物の LCCM 化改修評価法の検討を実施し、民生家庭部門および民生業務部門における CO₂ 排出量の将来推計手法の検討、シナリオ別 CO₂ 排出量の推計を行った。

(4) ゼロカーボンビルの推進

ゼロカーボンビル（LCCO₂ ネットゼロ）推進会議において、建築物のライフサイクル全体での CO₂ 排出量を評価するツール（J-CAT）等の検討を進め（IBECs と共同実施）、10 月に最新の原単位等を反映した J-CAT 正式版を公開したほか、CASBEE-建築の LCCO₂ 簡易計算のためのデータベースを作成した。また、ドイツ連邦建設・都市・空間研究所（BBSR）の研究者等と、ゼロカーボンビルの取り組みに関して東京で 1 回、オンラインで 2 回の意見交換を行った（7 月、10 月、1 月）。

4. 省 CO₂ 建築物等の普及支援

「サステナブル建築物等先導事業（省 CO₂ 先導型）」及び「既存建築物省エネ化推進事業」の審査委員会の運営支援業務及び令和 5 年度実績報告に基づく省エネ改修効果に係る調査・分析を実施した。

5. 環境・省エネルギー関連施策に関する普及推進

SDGs スマートウェルネス建築研究委員会の活動報告として、「ウェルネス建築による社会的インパクトの創出」と題したシンポジウムをオンラインで開催した（参加者 195 名）。

また、「サステナブル建築物等先導事業（省 CO₂ 先導型）」の採択プロジェクトの紹介等を内容とする第 31 回住宅・建築物の省 CO₂ シンポジウムを、国立研究開発法人建築研究所との共催によりオンラインで開催した（参加者 440 名）。

さらに、「住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査」第 9 回報告会をオンラインで開催した（参加者 660 名）。

貸借対照表

令和7年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1 流 動 資 産			
現金・預金	22,221,203	69,757,034	△ 47,535,831
未 収 金	259,317,051	194,432,774	64,884,277
流 動 資 産 合 計	281,538,254	264,189,808	17,348,446
2 固 定 資 産			
特 定 資 産			
建 物	1	1	0
建 物 附 属 設 備	2	317,970	△ 317,968
固 定 資 産 合 計	3	317,971	△ 317,968
資 産 合 計	281,538,257	264,507,779	17,030,478
II 負債の部			
1 流 動 負 債			
未 払 金	10,856,555	11,669,039	△ 812,484
預 り 金	1,195,283	496,020	699,263
流 動 負 債 合 計	12,051,838	12,165,059	△ 113,221
負 債 合 計	12,051,838	12,165,059	△ 113,221
III 正味財産の部			
1 指 定 正 味 財 産	3	317,971	△ 317,968
(うち特定資産への充当額)	(3)	(317,971)	(△317,968)
2 一 般 正 味 財 産	269,486,416	252,024,749	17,461,667
正味財産合計	269,486,419	252,342,720	17,143,699
負債及び正味財産合計	281,538,257	264,507,779	17,030,478